

2-4. 普天間飛行場跡地周辺の市民への取組み

(1) 市内各種団体に対する跡地利用計画検討に関する情報発信及び広報

1) 開催概要

①目的

普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた県市の取組みについて情報提供し、返還後のまちづくりへの興味喚起、市民目線での跡地利用計画検討に対する機運を高めること、新たな若い世代の人材の掘り起こしを目的として、市内各種団体を対象に情報発信および広報活動を企画・開催した。また、企画・開催にあたっては、令和6年度開催の市内各種団体懇談会の結果も踏まえて行った。

②意見交換のテーマ

普天間飛行場跡地の将来像を、「世界に誇れる優れた環境の創造 ～みどり（歴史・緑・地形・水）の中のまちづくり～」としていることから、意見交換のテーマを次のとおり設定した。

「“みどりの中のまちづくり”を目指して みどり（歴史・緑・地形・水） の中での活動を考える」

③対象

市内各種団体は以下の団体を対象として呼びかけを行った。

宜野湾市商工会、宜野湾市自治会長会、宜野湾市女性ネットワーク会議、宜野湾市女性連合会、宜野湾市青年連合会、宜野湾市老人クラブ連合会、宜野湾市 PTA 連合会、NPO 法人 沖縄コンベンションシティ会、いすのき通り会、coco ふていーま、普天間すずらん通り会、ぎのわんヒルズ通り会 等（順不同）

④開催スケジュール

回数	月日	時間	場所
第1回	10月28日（火）	19:00～20:30	宜野湾市役所別館 3階 第一会議室
第2回	2月18日（水）	19:00～20:30	宜野湾市役所別館 3階 第一会議室
第3回	2月19日（木）	19:00～20:30	宜野湾市役所別館 3階 第一会議室

④配布資料

「令和7年度 第1～3回普天間飛行場跡地利用に係る市内各種団体懇談会資料」

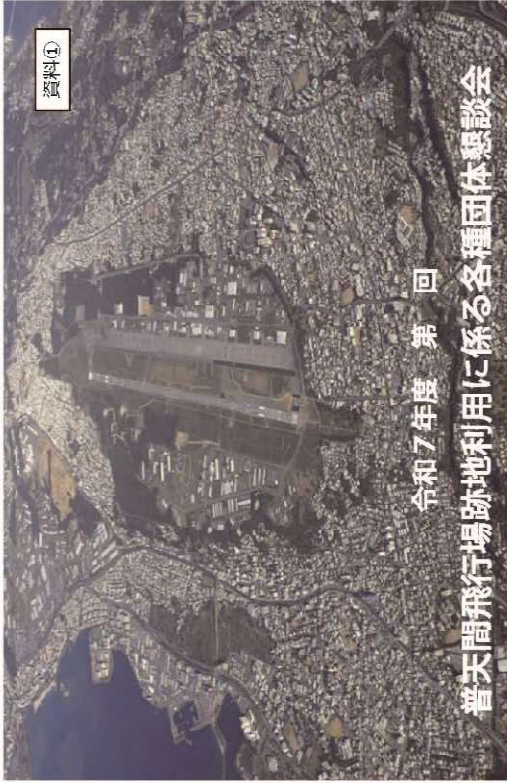
1.開会～趣旨説明

普天間飛行場の跡地利用計画の策定に向けて

- ① **市内各種団体の皆さまとの様々な周知や意見交換の場**等を通じ、
- ② **若い世代や多様・多様な世代の人材探し・人材育成**等を進めながら、
- ③ **市民等組織の強化・活動の活性化**等を図りたい。

※①～③のサイクルについては、継続的な取組として進める予定です。

2



資料①

令和7年度 第 回

普天間飛行場跡地利用に係る各種団体懇談会

令和8年 月 日
宜野湾市 基地政策部 まち未来課

1

2.本日の内容

1. 開会～趣旨
2. 本日の内容
 - (1) 目的とこれまでの懇談会について
 - (2) 跡地利用計画の検討状況
 - (3) 意見交換のテーマ
 - その1：“みどりの中でのまちづくり”を目標として
みどり（歴史・緑・地形・水）の活用とそれに必要なものは
 - その2：連携によって価値を生み出すには～新しくできる街へのヒント～
 - (4) 考え方のイメージ映像と事例紹介
 - ・全体計画の中間取りまとめ（第2回）ビデオ [8分5秒]
 - ・うめさたー参考となる商業地事例
 - ・泉パークタウンー参考となる住宅地事例
 - ・商店街の連携事例
 - (5) 意見交換と各意見の共有
3. まとめ～閉会

3

(1) 昨年度懇談会での意見の振り返り

令和6年度には、【安全なまち、安心なまちづくりの実現に向けて】必要な取組みなどについて意見を伺いました。

宜野湾商工会青年部：11名参加 北谷町2名 令和6年10月22日（火）

種類	課題	解決に向けた取組みと今からできること
交通安全	歩道の狭さ、路上駐車、渋滞の多さ、電柱があることによる通行のしづらさ、右折帯がないことによる視認性の低さ	歩道幅分譲、道路規格標準の工夫（歩道幅員の大小組み合わせによる車両速度の抑制）、電線地中化、大規模駐車場の整備、交通安全指導員の配置
防災	懇談会今時において避難場所まで車で移動することによる渋滞、防火無線の聞き取りつらさ、避難場所が不明	有事の際の避難レベルでの形状マニュアル作成、自治会別避難ルートマップの制作、防災グッズの支給、海岸沿いマンションについて避難拠点としての指定
防犯	夜間の街灯の少なさ、防犯カメラの少なさ、目の届かない公園、路上飲酒、深夜徘徊	街灯、交番の異なる設置、パトカーの巡回数の増、死角を減らし目が届きやすくなるための清掃活動（ゴミ拾い）、青年部作成の安全マップアプリの活用
バリアフリー	道路（歩道）の凹凸や公衆トイレの不衛生さ	道路の平坦化及び幅員の拡張、ジェンダーレストイレの設置などインフラ整備、バリアフリーへの改修に対する助成金創設
その他	街路樹の管理、老朽化した建築物、観光客が少ない、宜野湾といえはここという場所がない	市民がボランティアで街路樹を伐採できる仕組みをつくる、特区の創設、カンパノやF.L.G.Pの誘致

4

(1) 昨年度懇談会で意見の振り返り

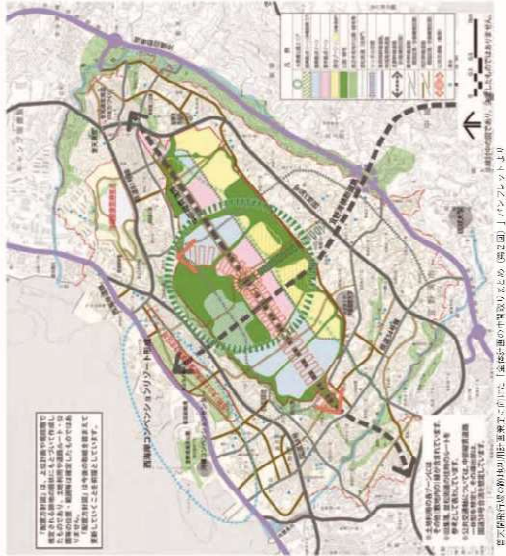
宜野湾青年会議所：11名参加

令和7年3月12日（火）

種類	課題	解決に向けた取組みと今からできること
交通安全	歩車道の区分がない、ガードレールがない、歩道の狭さ、渋滞、雨天時の冠水、交通弱者が多い	ガードレールの整備、自動運転、鉄道の整備により渋滞を減らす、サイクリングロードの整備、ライドシェア、朝夕の見守り活動
防災	市道11号の冠水、路上駐車、避難所受け入れ施設が西瀬川側にない協賛会や避難所と災害時における協定を締結しているか実行できていないこと、自治会の縮小	モノレールの延長、パークキングの充実、ヘリポートの整備、防災訓練の実施や避難場所・経路の周知、災害時における紙のマップ（アナログの利用性）、電光掲示板を多く設置し避難経路に分かりやすくする
防犯	外国人の移住による治安問題、交番に人がいない、街灯が少ない、いざというときに駆け込む場所（例：太博の家）が不明	（飲食店や商業施設、住宅地などの）エリアのゾーン分けは必須、エリアを決めて確保することが重要、防犯カメラを増やす、あいさつをする、路上飲酒者への声かけ
バリアフリー	歩車道の段差、板の勾配、公共施設が古い	介助タクシーやそれに類する交通機関の整備を増やす、到着時間を音声で知らせるバスの整備、公共施設の建て替え、道路の整備
その他	公園の少なさ、市内に救急病院がない、引きこもりなど支援が必要な家庭に対しての自治体フォローの不足	学校と自治体の連携、遊地内に中部地域を統括する役所をつくる

6

(2) 跡地利用計画の検討状況



6

(2) 跡地利用計画の検討状況



7

(3) 意見交換のテーマ

跡地利用計画では、将来像として【世界に誇れる優れた環境の創造～みどり(歴史・緑・地形・水)の中のまちづくり～】を掲げて、揺るぎないまちづくりの方向性と設定しています。加えて、まちの魅力は様々なヒト・モノ・コトが集合しつづ、かつ上手く繋がることでより相乗効果を発揮し、向上するため連携が求められます。

その1：みどり（歴史・緑・地形・水）の活用とそれに必要なものは
～“みどりのまちづくり”へを目指して

その2：連携によって価値を生み出すには
～新しくできる街へのヒント～

8

（4）考え方のイメージと事例紹介



9

●うめきた 参考となる商業地事例

グラングリーン大阪は、ターミナル駅前には4.5haの都市公園をつくることを公民連携で決め、公園を中心とする圧倒的なみどりに囲まれた空間や多様なアクティビティが生まれる大規模複合再開発の計画です。
 開発事業者が一般社団法人うめきたMMQを設立し指定管理者としてパークマネジメントとエリアマネジメントを行っています。



10

●うめきた 参考となる商業地事例



スマートシティ・サステナブルなまちの実現

ハードの取り込み

- 新Bhaの「みどり」を確保
 - 都市公園、西田広場、緑地帯等が広がる「みどり」の確保
- 質の高い公共空間を実現
 - 公共事業と民間事業者の連携による、本格的な「みどり」づくり
- 有効な民間財源の確保
 - 民間事業者としての参画、民間事業者入札と民間事業者の参画

ソフトの取り込み

- イノベーションプラットフォームを構築
 - 多様な人々の参画や交流を促進し、まちづくりを加速させる
- 公共空間におけるイノベーションを推進
 - 民間事業者が公共空間の活用を促進する
- CO₂削減を推進
 - 民間事業者、民間事業者の連携による、CO₂削減の推進

11

●うめきた 参考となる商業地事例

一般社団法人うめきたMMQ（大阪府大阪市）

2024年9月現在

Basic information

設立年月日	2023年6月1日	代表者	代表取締役 藤原 大輔
設立年月日	2024年7月30日	資本金	10,000万円
本社住所	〒545-0001 大阪市東淀川区東中津 1-1-1	事業内容	まちづくり、公園管理、施設管理、イベント運営、まちづくり、まちづくり
代表取締役	藤原 大輔	取締役	藤原 大輔、藤原 大輔、藤原 大輔
従業員数	19名		

Project

- 公共空間管理事業**
 - 公園管理、施設管理、イベント運営
 - 大規模複合再開発の公共空間の管理
- 公共空間管理・イベント運営**
 - 公園管理、施設管理、イベント運営
 - 大規模複合再開発の公共空間の管理
- 情報発信・イベント運営**
 - まちづくり、施設管理、イベント運営
 - 大規模複合再開発の公共空間の管理
- 施設管理事業**
 - 公園管理、施設管理、イベント運営
 - 大規模複合再開発の公共空間の管理

Hot topic

- HIDORIハート制度（施設管理）**
 - 多様な事業者が参画する「みどり」の確保
- まちづくり推進**
 - 多様な事業者が参画する「みどり」の確保
- 施設管理**
 - 多様な事業者が参画する「みどり」の確保

Tool

- まちづくり推進**
 - 多様な事業者が参画する「みどり」の確保
- 施設管理**
 - 多様な事業者が参画する「みどり」の確保

<https://umekita.com/>

12

●店舗事業者の連携事例

港川ステイツサイドタウン

1960年代に建てられた外国人向けの住宅街。1980～90年代に地元住民向けの賃貸住宅として利用されるようになり、独特の外観や室内が人気になった。その後、管理会社がエリア一帯を「港川ステイツサイドタウン」として、リノベーション可能な物件で貸し出している。住宅の6割以上が店前やオフィスなどの商業用途に転用される。個別の物件ごとでの地権者はそれぞれ異なるが、街の特色であるアメリカンな雰囲気は、賃借人と管理会社によって維持されている。

入居者と管理会社を核に地主が連携し独特の雰囲気を作り上げた事例といえる。



17

(5) 意見交換と各意見の共有

普天間飛行場跡地につくる“みどり”の中での活動をイメージすることで、まちづくりの展開について考えてみましょう。

みどり(歴史・緑・地形・水)の中での活動
とそれに必要なもの
をイメージしてみましょう

“みどり”の中のまちづくり”を目指して・・・

“みどり”の空間づくりをはじめとして、まちの魅力(価値)の向上のためには、様々な主体の相互連携が有効です。そのため、連携によって価値を生み出すことについて考えてみましょう。これは跡地における各主体の連携のヒントにもなります。新たなアイデアや、現在所属する通り会での取組があればご紹介ください。

連携(地主組合と、通り会で、市と、外部の事業者と)とその内容
をイメージしてみましょう

まちの魅力(価値)向上を目指して・・・

19

●店舗事業者の連携事例

UFURUFU (ウフルーフ)

道路協力団体制度とは、道路における身近な課題の解消や道路利用者のニーズへのきめ細やかな対応などの業務に自発的に取り組む民間団体等を支援するもの。久茂地都市開発(株)は、2020年11月には県内初として「道路協力団体制度」の認定を那覇市より受け、パレットくもく(前交通広場に県内最大級の屋外型イベント会場である「パレットくもく」大屋根(UFURUFU))の建設を内閣府補助金(沖縄県県民定住事業推進費)の採択を受けて2022年4月1日に完成させた。

店舗事業者と行政が連携し快適な道路空間作り上げた事例といえる。



道路協力団体の活動イメージ

18

(5) 意見交換と各意見の共有

- “みどり”の中での活動について自由にイメージを出してださい⇒付箋に記入
- 次に、それに伴って必要となること(ハード・ソフト)を書いてください⇒付箋に記入
- 該当する分野に分類する⇒テーブルの表に貼る

活動/活用)のイメージ	やる上で必要となること
-------------	-------------

- まち(今回は通り会)を想定しててください)をより良くするための連携の内容について自由にイメージを出してください。現在行っている連携でも構いません。

⇒付箋に記入し、テーブルの表に貼る

連携のイメージ
地主組合と
通り会で
市と
外部の事業者と

グループワーク：意見交換45分＋発表10分

20

**本日の成果は整理して後日
共有いたします。**

ご参加、誠にありがとうございました。

2) 実施概要及び意見内容

●第1回の実施概要

①日時 : 令和7年10月28日(火) 19時00分~20時30分

②会場 : 宜野湾市役所別館3階 第一会議室

③出席者 :

宜野湾市商工会 : 1名

宜野湾市自治会長会 : 5名

宜野湾市女性ネットワーク会議 : 1名

宜野湾市女性連合会 : 1名

宜野湾市PTA連合会 : 4名

《事務局》※第2回、第3回も同じ

宮城 恵美 宜野湾市基地政策部 次長兼まち未来課長

渡嘉敷 真 宜野湾市基地政策部基地跡地推進課 係長

仲本 彩乃 宜野湾市基地政策部まち未来課 主任主事

木下、和宇慶 (株式会社国建)

④配布資料 :

・会次第

・資料 : 令和7年度 第1回普天間飛行場跡地利用に係る市内各種団体懇談会資料

⑤意見交換の小テーマ

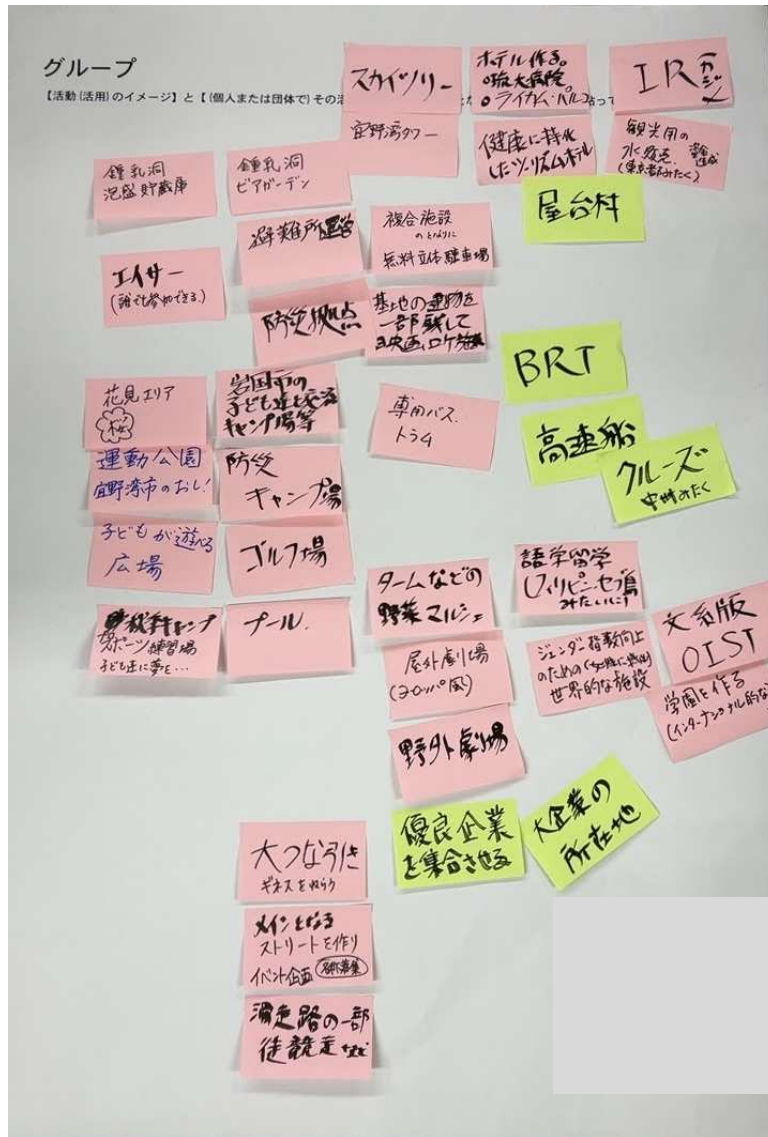
みどりの中で行う【活動(活用)のイメージ】と【(個人または団体で)その活動をするうえで必要となること】について

●第1回の意見内容

グループ1

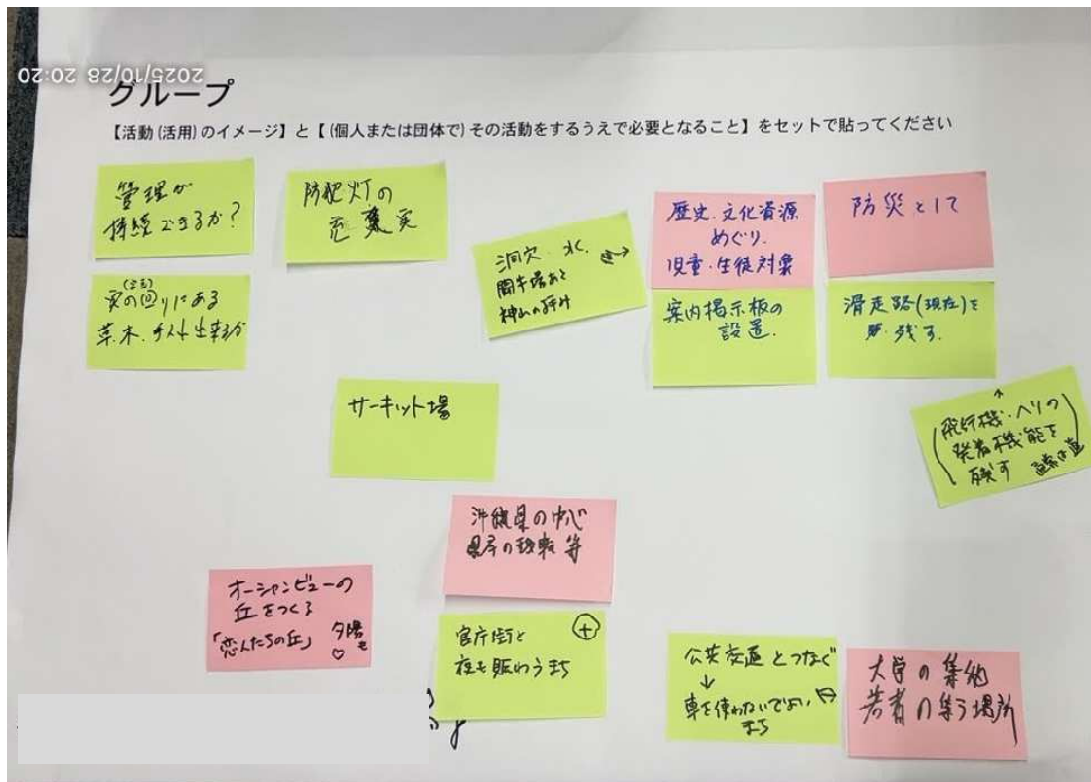
各人が自由な意見を出した。

- ・構想の段階であるため、自由に思い浮かんだものを書き出した。主なものとしてはピアガーデン、防災拠点、スポーツ施設、医療ツーリズムなど。
- ・意見が一致したのは、返還後にできるメインストリートとして、現在の滑走路の一部を残して活用するということ。
- ・そのメインストリートで与那原や那覇の規模を超える大綱引きをやりギネス記録を狙う、エイサーを踊る、マルシェ（市場）を開催する。
- ・読谷補助飛行場も北谷のハンビー飛行場も滑走路を撤去してしまったが、敢えて基地の名残である滑走路を残して、滑走路を中心にワクワク・ドキドキする宜野湾市にしたい。



グループ3

- ・商工会として参加しているので経済団体として現実的に考えた意見を出した。
- ・考え方として、人が集まらなると公園にも人は行かない、公園を作ったからといって人が集まるわけではない、という考えを出発点にした。
- ・オーシャンビューの丘を作る、“恋人たちの丘”というような観光地を作る。地下洞窟を使って観光利用するなど、目的地になるものが必要。
- ・滑走路を残す話がでた。幹線道路として残しておき、有事の際には再び滑走路として使用できるようにするのがよいと考えた。
- ・世界に誇れる街を作るのであれば、沖縄の顔になるのだから県庁を誘致するのがよい
- ・宜野湾市に大学をさらに誘致して若者を集める。若者を集めるということは人が集まるという事だから、街が元気になって公園も必要になるという発想である。
- ・「歴史文化・自然めぐり」というのは、児童・生徒を対象にする発想である。宜野湾市の子どもたちは普天間飛行場の中にそういった資源があることを知らないと思う。
- ・洞穴や地下水脈、拝所といった資源を活用するにあたっては案内板の設置が必要になる。
- ・その他に話が盛り上がったのがサーキット場である。跡地を一周するサーキットコースやゼロヨンコース（停止状態から400メートル（約1/4マイル）の直線距離をどれだけ速く走り切れるかを競う）があると面白い。騒音対策として緑で囲むというアイデアも出た。



●第2回の実施概要

①日時 : 令和8年2月18日(水) 19時00分~20時30分

②会場 : 宜野湾市役所別館3階 第一会議室

③出席者 :

NPO 法人 沖縄コンベンションシティ会 : 8名

④配布資料 :

・会次第

・資料 : 令和7年度 第2回普天間飛行場跡地利用に係る市内各種団体懇談会資料

⑤意見交換の小テーマ

○みどりの中で行う【活動(活用)のイメージ】と【((個人または団体で)その活動をするうえで必要となること)】について

○連携(地主組合と、通り会で、市と、外部の事業者と)とその内容について

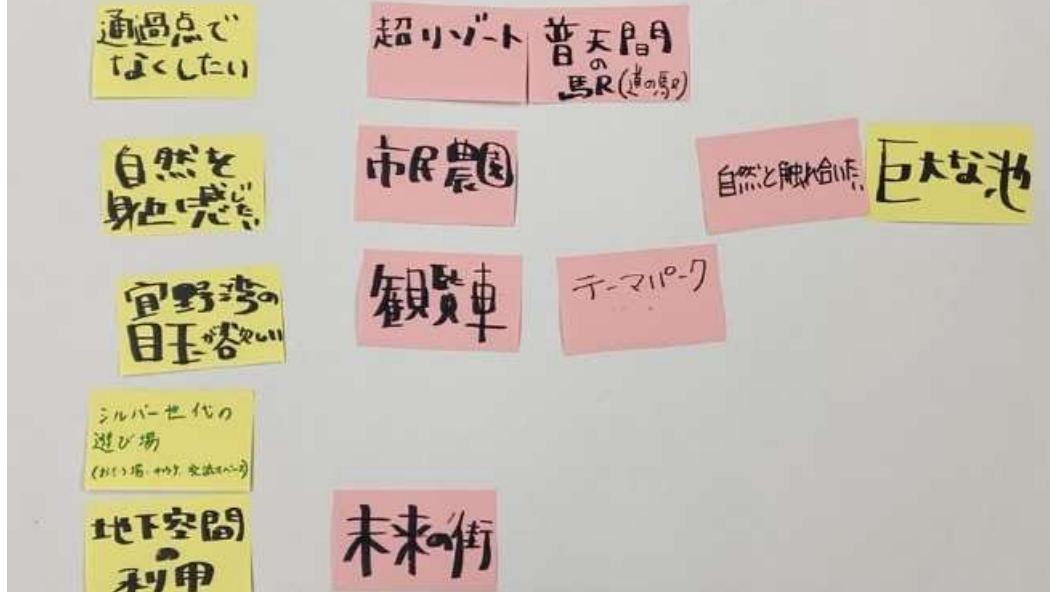
●第2回の意見内容

グループ1

- ・ 宜野湾市を通過点にはしたくないので、超上質なリゾートを作るとともに、滞在できる“普天間の駅”をつくる。
- ・ 自然もありながら都市的な雰囲気も感じられる場所があったらいいと思う。
- ・ 跡地の地下には地下水があるので、巨大な池を造りボート遊びなどができる公園ができないか。
- ・ 宜野湾市の目玉として、北谷町にあった観覧車も無くなったので、観覧車があるテーマパークがあったらよい。
- ・ テーマパーク内にはスパやサウナなどの遊び場があれば幅広い年代が交流できる。
- ・ 市民農園で収穫した野菜を、洗浄・梱包・出荷できる工場を地下に設けるなど、地下空間の利用もできるとよい。
- ・ 連携について、コンベンションシティ会は現在、企業と通り会での活性化への取組として、ホテルと組んで「宜野湾はごろもハーリー大会」を開催している。

グループ

【活動(活用)のイメージ】と【(個人または団体で)その活動をするうえで必要となること】をセットで貼ってください



【連携のイメージ】

地主組合と

通り会で

ラグナ グラド
ムーンネジャ
アリス

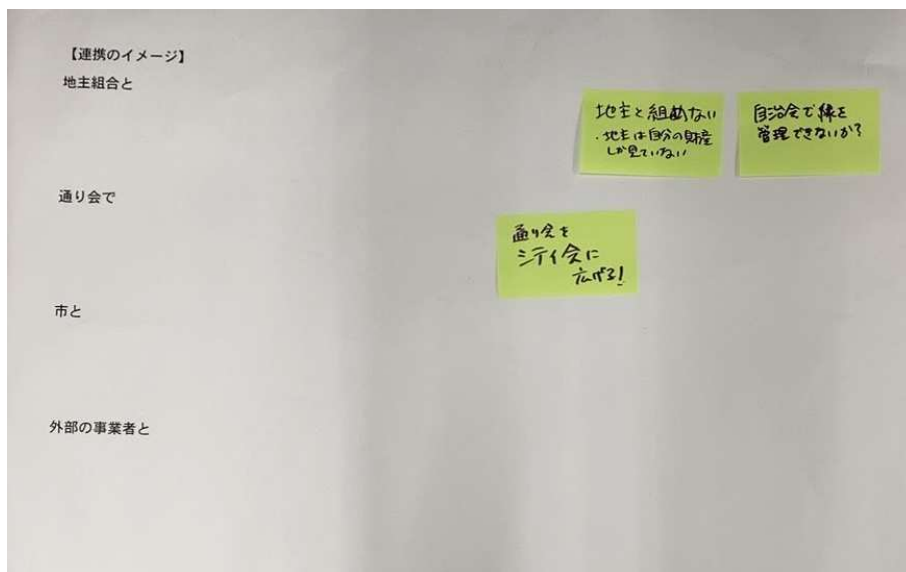
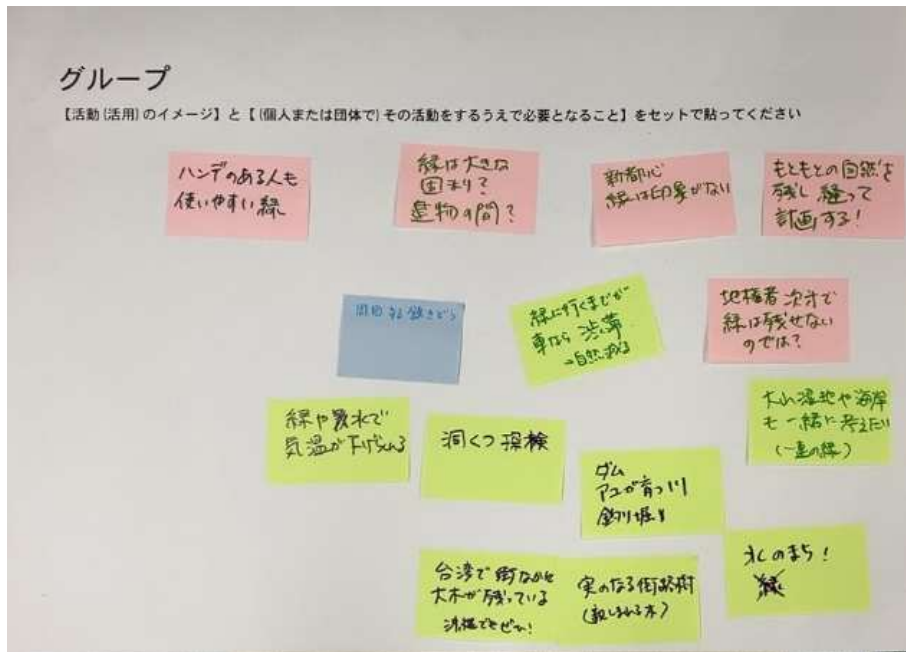
ハーリー松

市と

外部の事業者と

グループ2

- “みどりの中のまち”を目指すので、ハンディキャップのある人も使いやすい緑であるべき。
- 今ある緑も残しつつ、緑の大きな塊をつくるのがよい。
- 一方、地下水脈があるなら洞窟探検もできるだろう。
- 地下水を汲み上げて川を造ることができれば、魚釣りができる。拡大させれば水のまちも可能だろう。その水は緑があってこそ成り立つ。
- 以上の思考ループを2周ほど繰り返し、水と緑にあふれた台湾のようなまちを目指したいと考えた。
- 連携については、地主組合との連携は難しいと考えた。自治会で緑を管理することが今後の課題と思う。



●第3回の実施概要

①日時 : 令和8年2月19日(木) 19時00分~20時30分

②会場 : 宜野湾市役所別館3階 第一会議室

③出席者 :

coco ふていーま : 2名

普天間すずらん通り会 : 5名

④配布資料 :

- ・会次第
- ・資料 : 令和7年度 第3回普天間飛行場跡地利用に係る市内各種団体懇談会資料

⑤意見交換の小テーマ

- みどりの中で行う【活動(活用)のイメージ】と【(個人または団体で)その活動をするうえで必要となること】について
 - 連携(地主組合と、通り会で、市と、外部の事業者と)とその内容について
- ※事務局から提示した小テーマに限定せず、自由な意見交換が行われた。

●第3回の意見内容

【普天満宮門前のまちづくり】

- ・普天満宮の参道に土産物屋などが立ち並ぶような門前町をつくるべき。
- ・門前広場を活用したいが、使用料が高くて手が出ない。

【市民駐車場】

- ・市民駐車場(宜野湾市民駐車場・普天間市民駐車場)のようなものはこれからも残すべき。
- ・駐車場が圧倒的に不足しているため、北谷町美浜の町営駐車場ぐらいの規模が欲しい。
- ・普天間高校が跡地内に移転するのであれば、市営駐車場を整備してもらいたい。というのも、例えば普天間高校卒業式の日には周辺の駐車場が満杯になり、飲食店の予約客が来店できず、殆どがキャンセルになる事態が起きている。

【公共施設等の跡地への移転によるまちづくり】

- ・跡地内に公共施設が移転することで、周囲の市街地にまちづくりに使える土地が生まれる。

【移動交通の向上】

- ・人の移動が容易になるように無料巡回バスを整備してもらいたい。

【公園の緑の管理について】

- ・みどりのまちの資料を見て感じたことだが、地域住民による植物の管理は、本業でもないのに積極的にやることは難しい。委託すれば経費がかかる。公共施設である公園で収支を同じにしようという発想はおかしいと感じる。営利施設ではないので、使用料を徴収して収入を増やそうという考えはしないほうがよい。税金によって間接的に使用料を払っている。ただし、受益者負担の考え方もあるので多少は構わないと思う。
- ・▷ [事務局からは、アメリカのブライアントパークの事例を紹介(公園に接する街区の

不動産オーナーは同公園一帯のエリアマネジメント組織「BPC」に加入することができる。各オーナーには、公園に接するメリットとして不動産面積に応じた賦課税が上乘せされるが、ニューヨーク市から BPC へ活動資金として支払われる)。うめきたもこの仕組みを導入したものであることを説明した。]

【既存市街地の改良のための跡地の利用】

- ・ 既存の街は行き詰っている。それは地権者が複雑化しているためで、老朽化し放置されている建物もある。普天間高校裏手の密集住宅街は、火災が発生したら延焼が想像される。しかしながら移転する場所がない。そのためには既存の土地を買い取って、跡地内への移動も誘導できないか。現在住んでいる土地と、跡地内の土地を交換するためのエリアがあってもよいのではないか。
- ・ ▷ [事務局からは、コンセプト「みどりの中のまちづくり」は、緑を配置して商業施設を置いてそれで終わりという形にはしない、ということを謳っているし、跡地の中だけ新しい街になり既存市街地はそのまま、ではなく、狭小住宅密集地の所在という市の課題を解決する機会にもなる。新しい法律を作るぐらいのレベルでハードルは高いが、挑戦する価値はあると回答した。]
- ・ ダム建設の際に集団移転をするケースもあるので、突拍子もない話ではないと思う。

【通り会の活性化について】

- ・ 通りに来る客は国外からもいてアジア圏からが多い。米軍属もランチ時間帯に来る。
- ・ 台湾の中部、台東の鐵花村では廃路線をトレイルに造り変えていて、週末の土曜日に小さな屋台が立ち並ぶ。若いダンサーやミュージシャンがパフォーマンスをしていて、それを観に観光客も集まる。このように誰もがやりたいことを自由にできるエリアが跡地の中にもできるとよい。大型商業施設ができて入居できるのは大手企業に限られてしまうので、誰もが参加できるエリアができたならよい。そうすればビジネスに参加したい人たちが全国からやってくる夢のある地域になるだろう。

【“フテンマ”という呼称について】

- ・ フテンマという地名は残して欲しい。キラキラネームのような地名にはして欲しくない。
- ・ 普天間といえば普天満宮と神宮寺が核なので、そことの連携が求められる。
- ・ 良くも悪くも“普天間飛行場”という地区名には馴染みがある。

【交通渋滞について】

- ・ 西普天間住宅地区への琉球大学の移転は、道路の開通が後になったので、順番が間違っていたのではないかと感じている。
- ・ 自家用車に頼らないで暮らせる街は理想的だが、跡地の中だけそうだったとしても、域外に行くには車が必要になると思う。既存市街地側としては先に挙げた駐車場不足もあって連携したくても難しいのではないかと感じる。

【連携のイメージ(現在やっていること、跡地でできそうなこと)】について

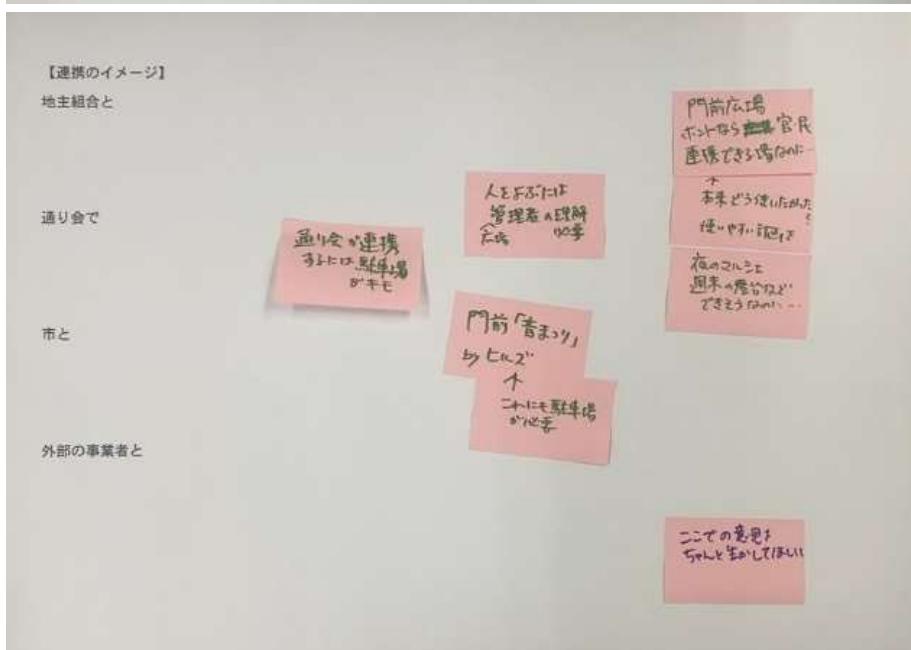
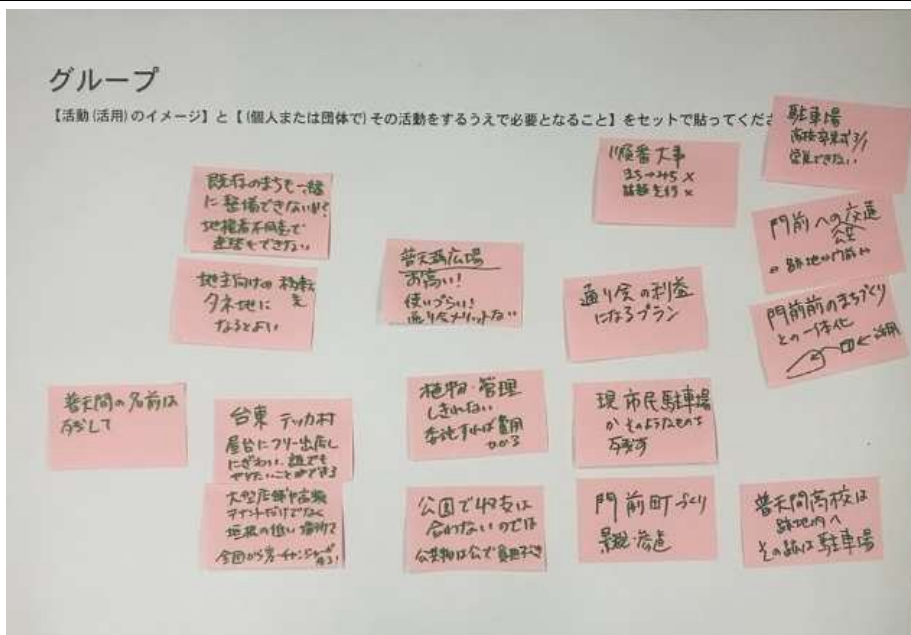
- ・ ぎのわんヒルズ通り会主催で 2025 年 11 月 30 日に「ぎのわんヒルズ音祭」を実施したが、そこで問題になったのは車で、連携してお客さんを多く呼びたいとなると、駐車場の問題に行きつく。やはり公共駐車場が少なすぎる (=広場の活用・連携には付帯環境として駐車場が必要である、ということ)。民間事業者は駐車場を確保できるほどの余裕はない。確保が難しければ、道路を拡幅して路肩に駐車できるようにしてもらいたい。沖縄市の空港通り(県道 20 号線)のような形(パーキングメーター)でよい。
 - ・ 門前広場は活用されていない。料金的な面と駐車場不足が原因と思う。稼働率について情報が欲しい。年間利用目標も知りたい。
- ▷ [門前広場については、使用料や音響等借用する際の条件や制約があり、申請に至るまでのハードルが高いとの声も借用希望者からいただいている、と事務局から説

明した。]

- 使用可能な電力容量も照明分程度である。
- まずは身近な存在である通り会に使ってもらって、こんな使い方ができるということ
を宣伝したらよいと思う。

【その他】

- 今日の意見がどうなるか結果を聞きたい。
▷ [事務局からは、今後は全3回の取りまとめと共有をすること、報告書にも掲載する
こと、跡地利用計画の関係会議にも提示すること、各種団体以外にも地権者・市民
からの意見も総合し、検討材料としてテーブルに載せることを説明した。実際の返還
が決まってから計画づくりをスタートするのは遅いため、このような活動を重ねて
いることも説明した。]



3) 取組み成果と課題

【取組み成果】

●有用な提案について

- ・みどりの中での活用に必要なものとして、他都市にはない新たな目玉となるような施設が多く出された。その一方で、地下水脈や洞窟、歴史文化資源としての拝所や滑走路といった跡地に固有な資源を保存・活用する意見も出された。
- ・活動拠点が跡地の外にある団体としての視点から、跡地利用を通じて跡地の外の街を改良する可能性が示された。これは跡地と既存市街地（跡地の外）との連携による市全体のまちづくりとなり得る。

【今後の課題】

●テーマ設定について

- ・「みどり（歴史・緑・地形・水）の中のまちづくり」というテーマに対して、参加者に新しいまちへの夢を描いてもらうことができたが、一方でテーマが広すぎる、実感できないとの声もあった。
- ・通り会団体には、連携について問いかけたが、自分事になりにくかった面もあった。

●参加呼びかけについて

- ・団体あたりの参加人数は制限していなかったが、対象は代表者だけと受け止め団体長一人のみ参加したところもあった。今後は、複数名参加可を伝える必要がある。

●意向醸成について

- ・跡地利用計画策定の取組みを進めていることについて、知らなかったと答えた参加者もいた。今後は未だ知らない層を対象に拾いながら意向醸成を図っていくことが求められる。